

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

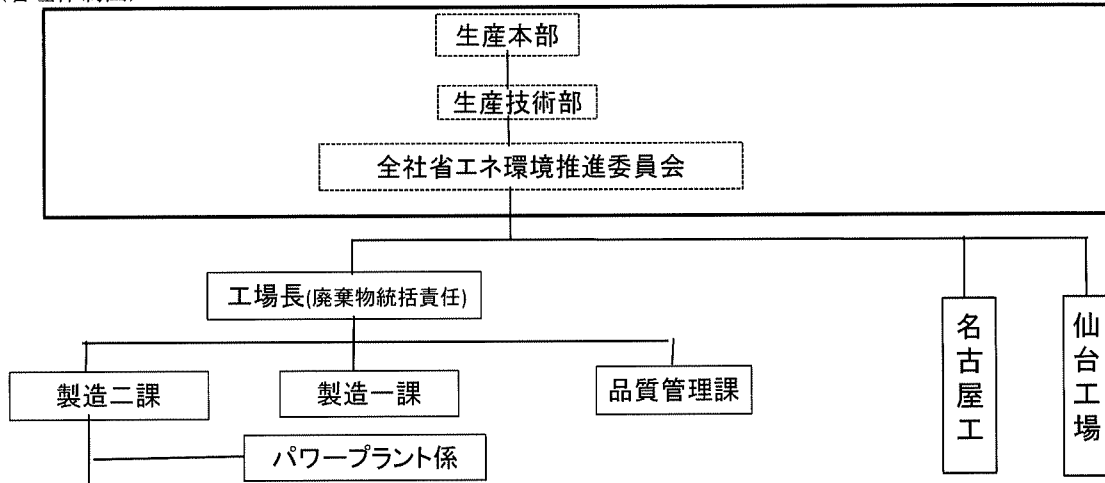
産業廃棄物処理計画書	
2023年 6月26日	
群馬県知事 山本 一太 殿	
提出者	
〒370-0101	
住所：群馬県伊勢崎市境東新井1301番地1	
境北部工業団地	
氏名：ポッカサッポロフード&ビバレッジ㈱群馬工場	
工場長 水野 和也	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号0270-76-3345	
<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 群馬工場
事業場の所在地	群馬県伊勢崎市境東新井1301番地1 境北部工業団地
計画期間	2022年4月1日から2023年3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類 製造業、中分類 飲料・たばこ・飼料製造業
②事業の規模	売上高 万円(前年度実績)
③従業員数	名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>・動植物性残渣(コーヒー粕・お茶粕・おから)、別紙添付廃棄物フロー参照</p> <pre>         graph TD             A[コーヒー・お茶・大豆処理] --&gt; B[抽出・搾汁工程]             B --&gt; C[抽出粕・おから]             A --&gt; D[搬出(収集運搬業者)]             D --&gt; E[中間処理業者]             E --&gt; F[最終処分業者(肥料)]             </pre>

（日本産業規格 A列4番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

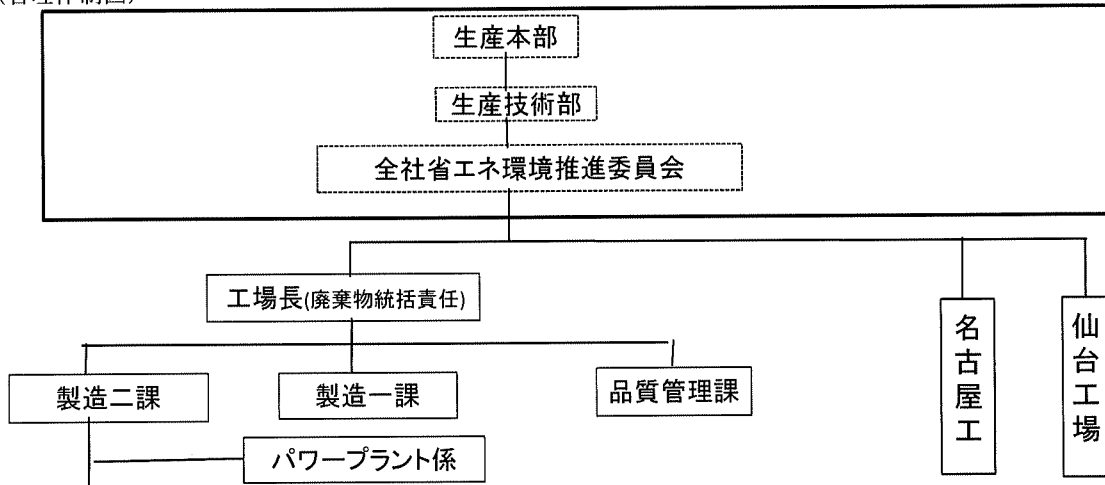
①現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	排出量	3971.37 t	167.8 t
	(これまでに実施した取組) 動植物性残渣は原料由来のもので削減は難しいが、100%有効活用できるよう努めた。また、製造工程の設備調整によりおからの含水率低減、豆乳廃液(廃アルカリ)の削減に努めた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	排出量	2971 t	159 t
	(今後実施する予定の取組) おからに関して、乾燥設備により飼料化する取組みを実施中であり、廃棄物としての排出量を大幅に低減できる見込みである。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 動植物性残渣である、コーヒー粕、ウーロン茶粕、お茶粕、紅茶粕、おからについては、貯留タンクを分け、現場より排出される際に貯留タンクを選定する事で分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 継続して分別に取組み適正な廃棄物処理を行っていく。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

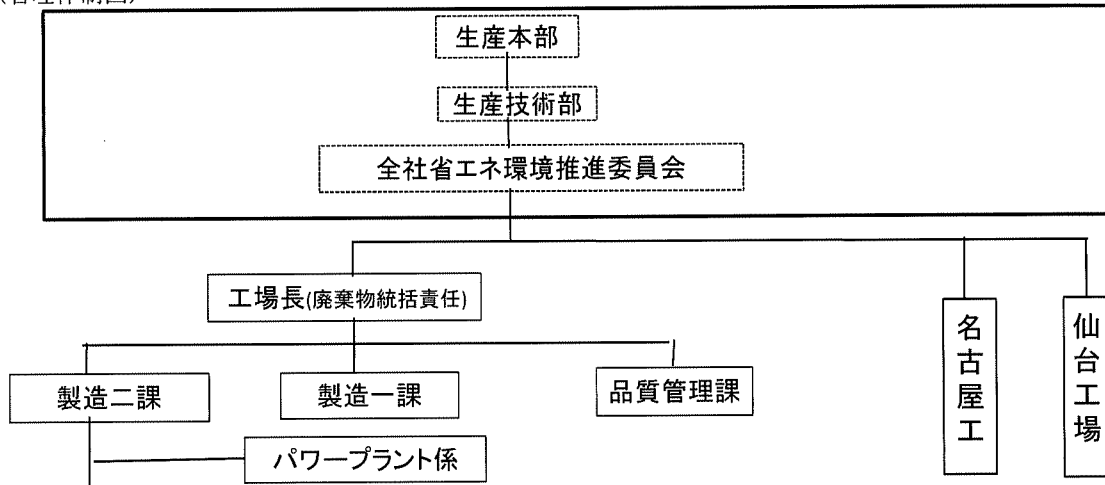
①現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	排出量	145.66 t	0.8 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチック類については継続的に分別を行い、できる限り有価物として排出し、廃棄物の排出量低減に努めた。 廃油についてはオイル交換を適正周期を行うことで排出量抑制に努めている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	排出量	138 t	0.76 t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチックは継続して分別に取組み、排出量を低減していく。 廃油は適正なメンテナンス手法の教育を行い余剰排出を低減する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) プラスチックについて、分別を進め状態のいいものについて有価物として排出している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 徹底した分別により産業廃棄物から有価物へ転換していく。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	2263.41 t	0.16 t
	(これまでに実施した取組) 汚泥について設備運転調整により余剰汚泥の発生量低減、含水率の低減を図っている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	2150 t	0.15 t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥について脱水汚泥では凝集性薬品の再評価を行い最適化を進める。また、排水処理設備の運転管理を向上し、イレギュラー時の汚泥引き抜きの発生を抑制する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 製品廃棄による汚泥排出について、工程検査強化し生産工程から発生する製品ロスの削減に努めている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 継続して工程検査を強化し、製品ロスの削減に努める。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施の予定なし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	26928.58 t	0 t
(これまでに実施した取組) 排水汚泥は含水率の低減を目指して脱水機の調整を行った。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	25582 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 生産工程検査の強化と排水処理、脱水機の運転調整を適宜実施していく。			

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施の予定なし。		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	全処理委託量	3971.37 t	167.8 t
	優良認定処理業者への処理委託量	3021.37 t	167.8 t
	再生利用業者への処理委託量	3860.75 t	167.8 t
	認定熱回収業者への処理委託量	110.62 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 動植物性残渣は敷料・肥料・燃料化への売買を実施し、産業廃棄物の減量化に努めた。廃アルカリは工程管理向上により歩留まりを改善し排出量の削減を行った。		



## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施していない。		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	全処理委託量	145.66 t	0.80 t
	優良認定処理業者への処理委託量	6.63 t	0.80 t
	再生利用業者への処理委託量	145.66 t	0.80 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチック類は分別を徹底するように試み、産業廃棄物の減量化に努めた。廃油はメンテナンスの最適化により余剰排出量の削減を行った。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組) 実施していない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	2263.41 t	0.16 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1787.84 t	0.16 t
	再生利用業者への処理委託量	2263.41 t	0.16 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 汚泥は含水率を低減させるために排水処理設備、脱水機の運転管理に努め、産業廃棄物の減量化を図った。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残さ	廃アルカリ
	全処理委託量	2971 t	159 t
	優良認定処理業者への処理委託量	2021 t	159 t
	再生利用業者への処理委託量	2861 t	159 t
	認定熱回収業者への処理委託量	111 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>動植物性残渣・おからについては乾燥気設備による減容化を進めて行く。</p> <p>廃アルカリについては更なる歩留まり改善に努め発生量の改善を目指していく。</p>			
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	全処理委託量	138 t	0.76 t
	優良認定処理業者への処理委託量	6 t	0.76 t
	再生利用業者への処理委託量	138 t	0.76 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>廃プラスチック類については更なる分別の徹底を検討していく。          廃油についてはメンテナンス作業の最適化を継続し、余剰排出量の改善を目指していく。</p>			
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	2150 t	0.15 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1698 t	0.15 t
	再生利用業者への処理委託量	2150 t	0.15 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>汚泥に関しては製造工程ロス削減の為の検査強化と、排水処理設備、脱水機の運転管理向上を継続的に進め、排出量の削減に努める。</p>			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。